令和五年度　第二学期始業式　校長講話

生徒の皆さんおはようございます。７月２１日から４２日間の夏季休業が終わり、今日から第二学期が始まります。本日の始業式も暑さを考慮し、一学期終業式と同様、オンライン形式で実施します。一同に会する機会がないのは、若干寂しい部分もありますが、どうぞよろしくお願いします。

それでは、校長講話として２点お話します。

まず、１点目は、「この夏一つでも自分を信じて挑戦したか」ということです。皆さんちょっと胸に手を当てて振り返ってみてください。どうでしょうか。

４３日前に、私から皆さんに「NO PAIN NO GAIN」ということわざを送りました。覚えていますか。一番いけないことは、失敗を恐れるあまり結局何もしないこと、挑戦しないこと、そして自分で勝手にあきらめることだという話をしました。なぜならリスクがないということ、それ自体がリスクであるからです。

つい１週間前の先月２５日に、今年の高校野球夏の甲子園で準優勝した宮城県仙台育英学園高校の須江監督のお話を直接聞く機会に恵まれました。須江監督は昨年夏の甲子園で優勝したときに「青春って密なんです」という言葉で一躍有名になりましたが、今年は「人生は敗者復活戦」という言葉を残されました。どんなに強いチームでも負けるときはありますし、そもそも挫折のない、失敗のない人生はありません。問題は敗者になったその後どうするか？ということです。須江監督は「挑戦から人生を１度（この１度は角度の意味です）変える、つまりほんのちょっとでもやり方や考え方を変えると到達点は変わってくる」とおっしゃっていました。角度をあまりつけすぎずに継続すること、あきらめないことが大事なことだと私は受けとりました。生徒の皆さんには、結果におびえず、挑戦し続ける人であって欲しいと思っています。

２点目は「人に寄り添える優しさと強さをもって欲しい」ということです。

生徒の皆さんは、普段本校における生活の中で、多くの知識や技術を学んでいます。この部分は工業高校の命です。そして、その知識や技術を基盤に、これからもさらなる精進を重ね、やがて立派なエンジニア、社会人になっていくと私は確信しています。考えてみると本校のキャチフレーズは「技を磨き心を育む」であり、これは「技」と「心」の二面が重要であることを示しています。でも皆さんは普段はあまりこの点を意識していないかもしれません。

本田技研工業、現在の HONDA の創業者である、本田宗一郎さん はこんな言葉を残しています。

「学問なり 技術があるということは 立派なことには ちがいないが それを人間のために有効に使って始めて 優れた人間だということができるのだと思う」

本田宗一郎さんが言われるように、皆さんが持つ知識や技術は、自分のためだけでなく、人のため、社会のため、世界や地球のために、役立たせてこそ、価値があり、その役割を果たすことができます。

そのためには、相手の気持ちや、立場に立って考えること。つまり想像力を働かせて人に寄り添えることが大切です。その基本は「優しさ」です。そして優しくあるためには、「心の強さ」が必要です。心が強くなければ、優しさは甘さになりかねないからです。本当の優しさは強い心に宿ります。

どうか「人に寄り添える優しさと強さ」をもってください。それが本物のエンジニアであり、社会人であると思います。

話は以上です。今学期は大切な学校行事もたくさんあります。授業も実習もたくさんあります。長丁場となりますので、健康に気を付けて志高く毎日を過ごしていきましょう。

令和五年九月一日
埼玉県立春日部工業高等学校長
齋藤　潤